

## 序 文

「環境」に関して、人々の関心が今ほど高揚した時代は過去には見られない。産業界におけるグローバリゼーションの波とともに、地球社会の構成員であるということの認識が広く人口に膾炙された結果である。母なる地球がその存続の危機に直面しているということが、国際社会の中での共通認識に至り、地球社会の健全な発展に一人ひとりが貢献しなければならない時代になっている。

学界においても、従来からの伝統的学問体系から学際的境界領域的総合科学の重要性の拡大とともに、土木工学・建築学の一分野である地盤にかかわる分野でも、従来の「地盤工学」の範囲に捉われないより広範な学問分野として、環境地盤工学や防災地盤工学、生態保全工学など、「環境」、「安全・安心」、「生態」、「サステナビリティ」といったキーワードを中心テーマとした「地盤環境工学」という学問体系が現出している。しかしながら、ここでカバーされる領域があまりに広いことから、大学や高等専門学校などの学生を対象として地盤環境工学の概要を記述した教科書が必要とされた。

そこで本書では、地球環境と地域環境、地盤汚染、廃棄物、建設発生土、地下空間利用、地盤災害、水域環境や生態系など、地盤と環境との相互関連を平易に解説した、新しい「地盤環境工学」の教科書の刊行を目指したものである。執筆方針として、本文の記述は極力簡潔に、図表を多く用いた記述に努め、また参考文献を明記することによって、より詳しい内容は専門書に当たっていただきやすいように配慮した。

読者対象としては、土木・建築・農学・地質系の高専生、大学生、大学院生を想定しているが、地盤工学の実務技術者、研究者、行政担当者の方にも役立つものと考えており、それらの方々にも手に取っていただけることを願っている。今後、地盤と環境問題の関係はより一層重要視されてくると考えている。また、時代の変革の速度はますます早くなっていることから、本書の内容も適

宜改訂を加えねばならないことであろう。読者各位のご批判とご指摘を得て、遠くない将来により良いものへと改訂する機会があれば幸いである。

最後に、本書の出版に際して九州大学理事・副学長 落合英俊先生からは、本書の構成や取組のスタンスに関する貴重なご意見を始め、側面からも多大のご指導とご支援を頂戴した。また、共立出版株式会社編集部の松永智仁氏と石井徹也氏には、原稿完成まで長期間辛抱強くお付き合いいただいた。記して深甚の謝意を表する次第である。

2010年10月吉日

著者